

ふるさと教育 取組事例

学校名	飯南町立志々小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3・4	総合的な 学習の時間	志々のよさでつながろう大作戦！ ～自然の豊かさ× 名人さんのすごさを伝えよう～	人 志々公民館のみなさん 志々の自然を活かすお仕事をされている地域の方 施設 (志々公民館・石田農園・後長牧場) 自然 川・山 (山菜) こと 陽サロ2号店
ねらい	○地域の人と関わり、協働することを通して、地域のよさを実感し、 未来の志々のまちをよりよいものにするために、地域の一員として自分 たちにできることに取り組み、地域参画への意識を高めるようにする。		
1 取組の概要			
<p>小单元①「志々地域のよさって何だろう？」⇒ 志々の自然の豊かさ・名人</p> <ul style="list-style-type: none"> 志々の自然を活かす名人(地域の方)を知るために、志々公民館の館長さんから志々の自然を活かす名人についてお話を聞く。 集めた情報から、今後の取材計画を立てる。 <p>小单元②「見て！聞いて！やってみて！見つけよう、志々の自然を生かす名人のすごさ」</p> <ul style="list-style-type: none"> 名人(山菜名人・竹名人・牛名人・花名人・果物名人)に取材をし、志々の自然を活かす名人の「わざ」や、地域への思いを知る。 名人とともに志々の自然と触れ合い、自然の豊かさを五感で感じる。 <p>小单元③「志々地域のよさを発信しよう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰に対して志々地域のよさを発信するのかを明確にする。 実際に体験したからこそ分かる志々のよさ(豊かな自然・志々の自然を活かす名人の「わざ」や思い)をどのようにして広めるかについて話し合う。 今まで学習したこと、体験したことをもとに、目的・伝えたい相手に合った「志々名人マップ」の作成・名人の「わざ」を活かした商品作りを行う。 学習発表会で、これまでの学習活動を発表したり、商品販売をしたりして、志々地域のよさを発信する。 <p>小单元④「志々地域のために、自分たちにできることを実行しよう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> 志々名人マップのアンケート結果をもとに、「志々名人マップ」のよりよい活用方法を考える。 学習発表会での商品販売で得た売上の使い道を考える。 公民館事業「陽サロ2号店」で地域の方に学習の成果をプレゼンテーションし、売上を活用して購入した花を公民館に寄贈する。(花の近くに置く看板には、「志々名人マップ」も貼り、志々地域のよさを発信するために役立ててもらおう。) 今年の総合で身につけた力について振り返り、これから自分たちにできることを考える。 			
<p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>(1) 地域の「ひと・もの・こと」と体験的に繰り返し関わり、志々で地域のよさを活かしながら働く方々(志々の自然を活かす名人)の思いに気付くことができるようにする。 地域の「ひと」(志々地域の自然を活かしながら働く方々)・「もの」(自然・神戸川・染物等) ・「こと」(公民館活動)と繰り返し関わることで、児童自身が志々地域のよさを体感し、広める活動に意欲的に取り組むことができると考えた。小单元が進むたびに、児童の思いや願いを高めていくことができるような、ふるさとの「ひと・もの・こと」の出会いを大切にしたい。</p> <p>(2) 地域のために自分たちができることに取り組むことで、ふるさとへの愛着と誇りを高める。</p>			

※取組の様子がわかるような画像を数枚貼り付け、ファイルのデータサイズ 500kb 以下となるようにしてください。

※この事例をしまねのふるさと教育ホームページに掲載する予定のため、画像は必ず承諾を得たものにしてください。

志々地域のよさ（自然の豊かさ・自然を活かす名人のすごさ）を地域の方に再発見してもらうために、児童は「志々名人マップ」を作成した。石田農園で商品にできず廃棄されるブルーベリーを材料に使い、名人の染物の「わざ」を活かして作った商品（キーホルダー・リース）と、「志々名人マップ」をセットにして販売した。自分たちが地域のためにできることを考え、名人の方と協働的に取り組むことで、活動への意欲を高めるとともに、ふるさとへの愛着と誇りを高めることができるようにした。

（学力育成の視点から）

（3）教科横断的な学習による、実用感・有用感のある学び

総合的な学習の時間を軸に据えながら、他教科とのつながりを意識したカリキュラムマネジメントにより、学んだことを実生活に活かし、学んだことと生活とのつながりを児童が自覚できるようにした。志々の自然を活かす名人をゲストティーチャーに迎え、お仕事について教えてもらったり、一緒に活動・制作をしたりした際、国語の「お願いやお礼の手紙を書こう」の学習で学んだことを活かして、児童自らお願いやお礼の手紙を書いた。また、自分たちの活動成果を発表するにあたって説得力をもたせようと、「調べたことをほうこくしよう」の学習を活かしてアンケートをとり、その結果を踏まえながら成果を発表した。社会科「わたしのまち みんなのまち」では、地図記号を使いながら志々地区の地図を作成した。その単元での学びや経験を「志々名人マップ」の作成の際にも活かすことができるようにした。教科の学びを実社会・実生活に生かすことで、学びを深めることだけでなく、各教科で学んでいることの意味やよさを実感することができるようにした。

（4）地域の方に「自分たちの活動成果」「志々地域のよさ」について発表する場を設定することによる表現力の向上

「志々地域のよさを志々地域の方に再発見してほしい」という思いのもと、学習発表会や公民館活動（陽サロ2号店）で発表を行い、志々地域のよさや、自分たちの活動成果（キーホルダー・リース販売の売上による花の寄贈）を伝えた。実際に体験したり、志々の自然を活かす名人に取材をしたりしたからこそ分かる「志々地域のよさ」を伝えるために、どのような発表内容にするか、どういった方法で伝えるのかについて、思考ツールを活用した話し合いを通して決定するようにした。その際、目的意識・相手意識を明確にして児童の意思に基づいて発表内容を決定することで、児童一人一人が自分事として考えることができるようにした。

**3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）
（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）**

（1）地域の「ひと・もの・こと」と体験的に繰り返し関わる中で、志々の自然を活かす名人の方々は、志々にあるものを活かして地域のためにできることに取り組んでおられることに気付いた。「志々の自然を活かす名人の方々は、いつも思い通りになるわけではない自然を相手に努力されており、『地域のために』という思いをもって働いておられる」「志々のまちに住んでいる自分たちも知らなかった名人の努力や思いがある」といった気付きがあった。



学んだことや気付いたことが自らの体験とつながることで、「志々の自然を活かす名人のすごさを広めたい」「志々のよさを広めるために自分たちにできることをしたい」という思いや願いを高めることができた。

（2）志々の自然を活かす名人（同じ問題の解決を目指す地域の方）との協働により、地域の問題を解決していく中で、児童の社会への参画意識が醸成された。「志々名人マップ」に二次元コードによるアンケートを添付したことで、地域の方から児童の活動に対するリフレクションが返ってきた。また、キーホルダー・リース販売の際には、直接地域の方から「『志々名人マップ』を作ってくれてありがとう。」「すごく分かりやすいマップだね。」といった声をかけていただいた。販売後の児童の振り返りには、「取材や販売の準備は大変なこともあったけれど、自分たちの思いが伝わってうれしかった。」「名人の方に協力してもらったからこそ、志々のよさを広めることができた。」といった感想が書かれており、児童が達成感でいっぱいにな



※取組の様子がわかるような画像を数枚貼り付け、ファイルのデータサイズ 500kb 以下となるようにしてください。

※この事例をしまねのふるさと教育ホームページに掲載する予定のため、画像は必ず承諾を得たものにしてください。

ったこと、また、志々のまちへの愛着が芽生えていったことがうかがえた。

(学力育成の視点から)

(3) 『総合的な学習の時間の成果に関する調査研究』(東京都教職員研修センター) 児童・生徒対象調査の「8つの評価の観点と身に付いた力として設定した質問項目」を参考にしてアンケートを行った。

①教科で習ったことを総合的な学習の時間で生かせるようになってきた。

②教科などの学習にあらためて興味をもつようになった。

③教科などにおける勉強の大事さが分かるようになった。

上記の3つの質問に対して、全ての児童が「当てはまる」と回答している。すなわち、総合的な学習の時間を軸に据えながら、他教科とのつながりを意識したカリキュラムマネジメントを行ったことにより、教科の学びを実社会・実生活に生かすことができた。それが、学びを深めることだけでなく、各教科で学んでいることの意味やよさを実感することにつながった。

(4) 目的意識・相手意識を明確にした上で、思考ツールを活用しながら児童の意思に基づいて発表内容を決定することで、相手や目的に応じた表現をしようとする姿が見られた。自分たちで決定しているからこそ、発表の場で伝えなかった思いを伝えることができたときの達成感も大きく、児童の自信につながっていった。だからこそ、学習発表会で、志々小学校の保護者の方に総合的な学習の時間における活動成果や自分たちの地域への思いを伝えたとに、「もっとたくさんの地域の方にも伝えたい」という思いが生まれていた。児童の「伝えたい」という思いの高まりが、表現する力の向上につながった。

4 課題や今後の展望

今後も、児童の資質・能力の育成を目指し、地域の「ひと・もの・こと」を活用し、実社会・実生活とつながりを持ちながら学ぶことができるよう、総合的な学習の時間を軸に据えた、他教科とのつながりを意識したカリキュラムマネジメントを行いたい。そのためにも、総合的な学習の時間の年間指導計画を編成する上で、児童の実態を踏まえながら、各学年(3・4年生、5・6年生)が総合的な学習の時間に学ぶことの方向性を定めていきたい。そして、総合的な学習の時間における学びを系統性のあるものにしたい。

本校は、令和9年度から頓原小学校と統合することになっている。統合後も、これまで本校で行ってきた志々地域での学びを継続・発展していくために、志々地域の教育資源を見つめ直し、活用の在り方を検討していきたい。